

【今週号のテーマと予想レンジ】 ～米国、中国のイベント次第ではドル円 90 円台本格回復へ～

ドル円 … 88.00～91.00 (ドル円底堅い)

ユーロ … EUR/USD 1.2300～1.2900 EUR/JPY 110.50～115.50 (対ドル・対円しっかり)

ポンド … GBP/USD 1.4800～1.5500 GBP/JPY 131.00～135.00 (対ドル・対円横ばい圏)

豪ドル … AUD/USD 0.8600～0.8900 AUD/JPY 76.00～ 80.00 (対ドル・対円しっかり)

参議院議員選挙は与党民主党の大敗となった。民主党は改選議席の「54」を勝敗ラインとし、事前報道でも、民主党が過半数を維持できるかが焦点と見られていた。「ねじれ国会」の復活は民主党にとって、予想外に悪い結果となったということだろう。

今度の選挙では、二大政党のトップがともに財務大臣経験者で、財政再建を公約に掲げていた。市場は、外的な要因がありながらも、日本国債買いという行動で、この流れを支持していたかに見える。結果としては、「消費税の引き上げありき」には反対するみんなの党が議席を伸ばしたわけだが、市場の評価と民意は乖離していたのだろうか。他の政党に目をやると、自民党とみんなの党以外は改選議席を維持できなかった。結果だけを見ると、国民新党など、財政出動による景気対策優先、という政策・政党への評価は低かったと総括できそうだ。選挙戦を通して、タイミングなどの議論はともかく、少なくとも消費税引き上げを議論せねばならない財政状況にある、ということは国民に浸透したと言ってよいだろう。つまり、程度の差こそあれ、数を持った勢力は財政再建を至上命題と考えており、菅首相就任、G20 を経て出来上がった財政再建への流れは止められないと考えてよさそう。

尤も、当面は内閣の推し進める諸政策が一旦停止乃至は減速することとなろう。財政再建の方向感で一致しているからといって、簡単に民主党と自民党の大連立という展開になるとは考えづらい。また、民主党内にも、所謂小沢派と呼ばれる勢力を中心に財政出動による景気回復を目指せ、という声も根強く、今後動きが活発化することも予想されている。菅首相はひとまず留任することを表明しているものの、9 月に民主党代表選が予定されており、それまでは党内の情勢が不安定なものとならざるを得ない。足元がおぼつかないなかでは、首相の掲げた「財政再建+経済成長」という道を邁進することは困難を極めよう。ただ、政局は流動的となるのは確実で、市場の反応は教科書的に株、為替、債券トリプル安の「日本売り」となりうる状況だが、週明けの東京市場を俯瞰すると与党の苦戦は予め想定されていたこともあり、選挙結果を受けた動きは限定的と言ってよさそう。

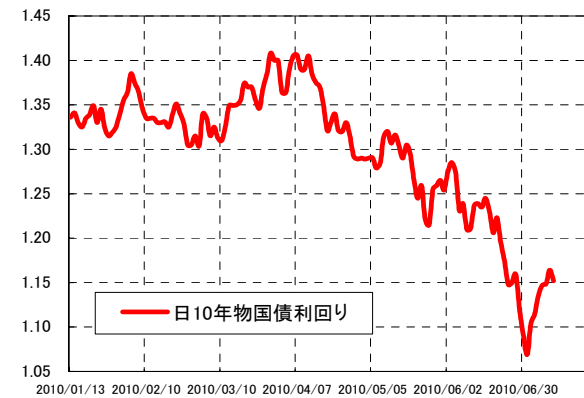
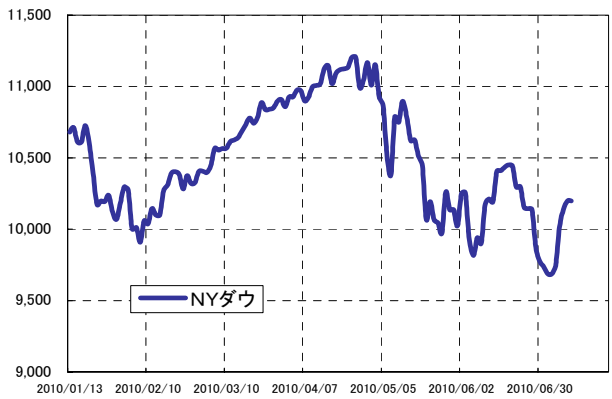
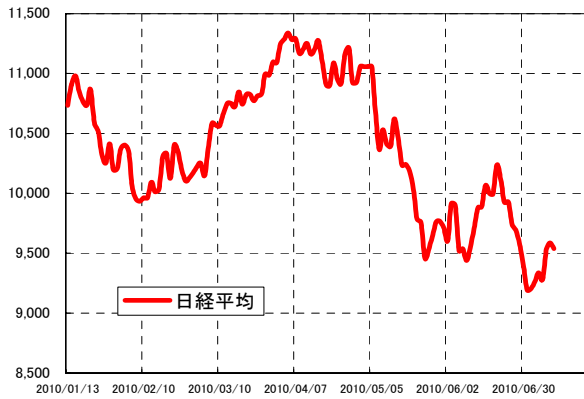
さて、先週は欧米で金融機関を巡る動きが相場を左右させた。米国では大手銀行の決算が予想を上回ったことが今後相次ぐ企業決算への期待を生んだ。欧州では金融機関に対するストレステストが懸念されていたほど厳格に実施されないとの見方が広がった。また、豪州では雇用統計が予想外に強い結果となり、一部にあった「利下げ」観測を一蹴した。いずれも「リスク回避」の流れを一旦巻き戻す動きを誘発するもので、株価も世界的に反発し、ユーロや新興国通貨は買い戻された。ドル円も週末にかけて、クロス円の上昇や、米債の利回り上昇に支えられ 88 円台を回復、今朝方は 89 円台まで上昇している。

このところ浮き沈みの激しい世界的な景気の「二番底懸念」。6 月末にかけての株安、ドル安は、欧州危機の影響が米国と中国に波及し景気腰折れ、といった事態に発展するという不安が引き金となった。ただ、先週末の時点では、投資家の心理を現すとされる「恐怖指数」VIX インデックスが 6 月末に比べ 10 ポイント程度下落したこと、NY ダウが一週間で 500 ドル上昇したことに象徴されるように、不安の度合いは緩んでいる。再び不安は高まるのか、それともこのまま沈静化していくのか。今週は、その動向を見極めるうえで注目のイベントが目白押しである。米国では FOMC の議事要旨、金融機関を中心とする企業決算、鉱工業生産や消費者物価指数など、中国でも月に一度の経済指標発表日が週末に控える。なお、事前の予想をみると、いずれも景気拡大ペースの減速を示す結果となると見られているが、これらの結果如何で相場が大きく振れる一週間となろう。

参議院議員選挙を終え、円を積極的に買う理由がひとつなくなった。今週発表される各種経済指標が二番底懸念をさらに後退させるものとなれば、溜まっているドル円ショートポジション巻き戻しも相俟って、ドル円の 90 円台本格回復も見えてくる。

(金融市場部 アナリスト 井野 鉄兵)

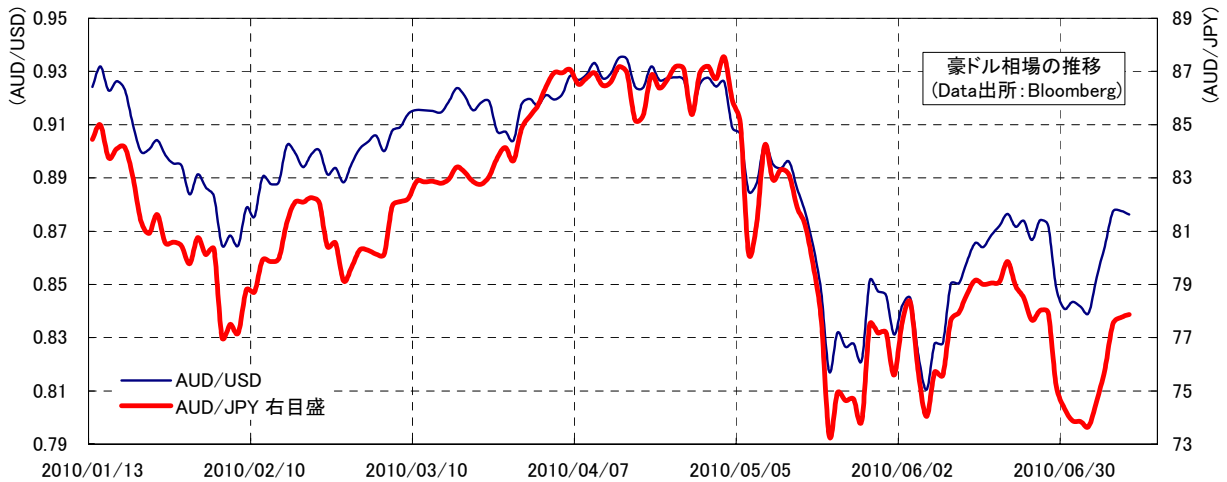
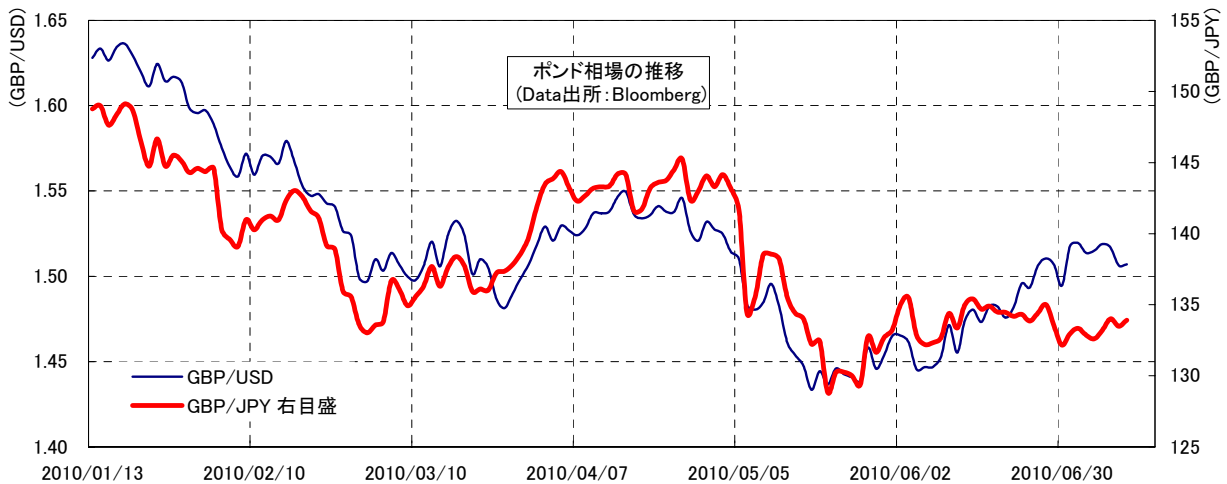
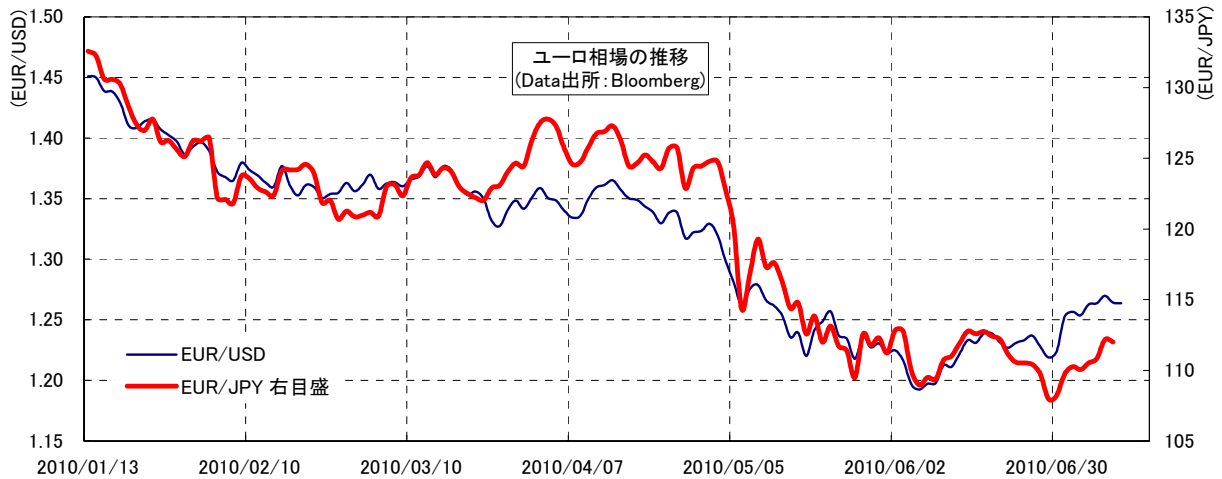
BTMU FX Weekly



【今週の予定】

月	火	水	木	金
12	13	14	15	16
英/GDP確報(1Q) 中/マネーサプライM2(6月)  EU財務相会合(ブリュッセル) 米・リッチモンド連銀総裁講演 米・FRBバーナンキ議長講演 米・FRBデューク理事講演	米/貿易収支(5月) 財政収支(6月) 独/ZEW景況指数(7月) 英/消費者物価指数(6月)	米/FOMC議事録(6/22, 23分) 輸出入物価指数(6月) 小売売上(6月) 企業在庫(5月) ユーロ圏/消費者物価指数確報(6月) 鉱工業生産(5月) 英/失業率(6月) 日/日銀金融政策決定会合(~15日)	米/NY連銀景況指数(7月) 生産者物価指数(6月) 鉱工業生産(6月) 設備稼働率(6月) フィラデルフィア連銀景況指数(7月) 中/GDP(2Q) 消費者物価指数(6月) 小売売上(6月) 鉱工業生産(6月) 固定資産投資(都市部, 6月) 日/日銀金融政策決定会合 日銀総裁定例会見 米・上院銀行委員会、FRB副議長 承認公聴会 米・リッチモンド連銀総裁講演	米/証券投資収支(5月) 消費者物価指数(6月) ミシガン大学消費者信頼感指数 速報(7月) ユーロ圏/貿易収支(5月) 日/日銀金融経済月報(7月)

BTMU FX Weekly



Global Currency Research

東京

亀井 純野  
sumino\_kamei@mufg.jp  
井野 鉄兵  
teppe\_iino@mufg.jp  
秋山 文子  
ayako\_akiyama@mufg.jp

山下 正太郎  
shiyoutaro\_yamashita@mufg.jp  
田端 克美  
katsumi\_tabata@ptr.bk.mufg.jp  
内田 稔(市場営業部)  
minori\_uchida@mufg.jp

ロンドン

Mr. Derek Halpenny  
derek.halpenny@uk.mufg.jp  
武田紀久子  
kikuko.takeda@uk.mufg.jp

Mr. Lee Hardman  
lee.hardman@uk.mufg.jp  
Ms. Marcia Doyle  
marcia.doyle@uk.mufg.jp

シンガポール

Ms. Leong Sook Mei  
leongsm@sg.mufg.jp  
谷 和衛  
tani@sg.mufg.jp  
Ms. Geraldine Mok  
geraldine\_mok@sg.mufg.jp

〒100-6417 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビル 三菱東京UFJ銀行 金融市場部

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。なお、当資料の無断複製、複写、転送はご遠慮ください。当方の都合で、本レポートの全部または一部を予告なしに変更することがありますので、予めご了承ください。